

令和5年度 TAC&営農指導員紹介

今年度もよろしくお願ひいたします。



【写真①】	○浅井担当TAC	植谷 泰行	080-8507-1179
【写真②】	○虎姫・びわ担当TAC	田中 涉	080-8507-1180
【写真③】	○湖北担当TAC	丸岡 貴志	080-8529-9184
【写真④】	○高月・伊香担当TAC	佐野 大地	080-8507-1178
【写真⑤】	○園芸特産担当TAC	児玉 瑞輝	080-8328-6780
[統括支店配属]			
	○浅井・虎姫営農指導員	今井 正彦	090-5960-3266
	○びわ営農指導員	山口 義晃	080-2510-6029
	○湖北営農指導員	石川 博之	080-9592-8096
	○高月営農指導員	山本 克行	080-9592-8095
	○伊香営農指導員	布施 直亮	080-2540-8537

肥料価格高騰対策について

令和5年度 春肥の交付金申請について

令和5年度春肥の申請については以下の日程で予定しております



4月中旬頃	取組実施者(JA、肥料商組合員等)に対する説明会
4月中旬頃～	農業者への案内(チラシ配布、県HP等)
6月中旬頃まで	農業者から取組実施者への申請
7月中旬頃まで	取組実施者から県協議会への申請
9～10月頃	県協議会から取組実施者に対する支援金交付

※上記日程は予定のため、今後変更となる場合があります。

支援対象肥料

→令和4年11月～令和5年5月末の期間に購入した肥料

支援要件・金額等の情報は、詳細がわかり次第お伝えします

大麦生育状況

昨年より出穂期が大幅に早まることが予想されます！

積雪の多かった昨年と比べて冬期の降雪が少なく、2月以降気温が高く推移したため、昨年より出穂期が大幅に早まることが見込まれます。

適期防除と必要に応じた実肥を施用しましょう。

今後の管理は①赤かび病防除のタイミング、②実肥の施用！

①赤かび病防除【防除時期の目安】※必ず2回防除を実施して下さい！

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
10月中旬	4月5日～	4月8～15日	4月15～22日

(3/24付 県 農産普及課麦作情報より)

【赤かび病の防除時期と薬剤】あくまで目安なので圃場を確認し、実施してください！

	防除時期	使用薬剤名	使用量	使用時期 (収穫前)
粉剤 防除	1回目 (開花始め)	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	14日前まで
	2回目 (開花始めの7日後)	ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	7日前まで
液剤 防除	1回目 (開花始め)	トップジンM水和剤	1000倍～1500倍で 60～150ℓ/10a	30日前まで
	2回目 (開花始めの7日後)	ワークアップフロアブル	2000倍で 60～150ℓ/10a	7日前まで
ヘリ 防除	1回目 (開花始め)	トップジンMゾル (ドローン散布登録有)	8倍で 0.8ℓ/10a	21日前まで
	2回目 (開花始めの7日後)	ワークアップフロアブル (ドローン散布登録有)	10～16倍で 0.8ℓ/10a	7日前まで

※液剤防除の場合は、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意してください。

②実肥の実施

より良い品質の大麦を作っていただくために実肥の施用をおススメします！

※早すぎる実肥は遅れ穂の発生を助長しますので、下の目安を参考に実肥を施用しましょう！

また、生育旺盛な圃場であれば、止葉展開期(出穂初期)からの早期実肥でも問題ありません！

施用時期

出穂10日後(4月中旬頃)

施用量

分施肥体系の場合：窒素成分で4kg/10a

一発肥料の場合：窒素成分で2kg/10a



この花粉袋
が見え始め
た時が、
1回目の赤
かび防除適
期です！



水稻育苗管理

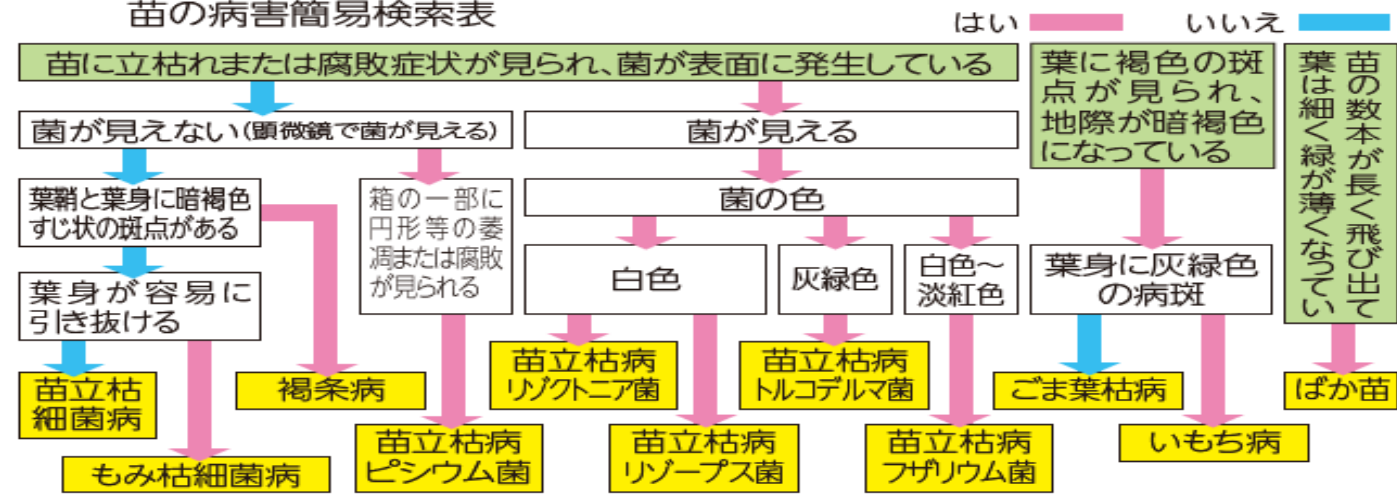
水稻育苗ビニールハウスの水管理と温度管理

	緑化期間	硬化期間
昼間	22~25℃	18~20℃
夜間	15~18℃	12~15℃
水管理	午前中に1回灌水	午前1回、午後1回

※苗が小さい時は吸水も少なく床土も乾きにくいので灌水のし過ぎに注意しましょう。
 ※昼間の最高気温は35℃以上にならないように、夜間の最低気温は10℃以下にならないようにハウスの開閉で調節しましょう。

育苗中に発生する病害

○主に**高温・多湿で発生しやすい**ため、**温度管理に注意!**



○ピシウムによる苗立枯病は、他の菌とは異なり、地際部にカビが発生しているのが見えません。急激な温度の変化で発生しやすく、発病初期は坪状にしおれ、育苗後半には赤茶けて枯れます。
 ○苗立枯細菌病は、葉身基部の白~黄白化が最大の特徴で、育苗箱内で伝染するため、坪状に発生します。根の生育が著しく抑制され、生育不良・マット形成不良となり、最終的には針状に立ち枯れします。

病害が発生しないよう、播種前までに種子消毒剤を使用してしっかり予防を!



病気種類	主な対策
ピシウム フザリウム	播種時: タチガレース粉剤 予防 発芽後: タチガレース液・タチガレン 治療
リゾプス	播種時: ダコニール粉剤 治療 緑化期: ダコニール1000
トリコデルマ	緑化期: ダコレート水和剤
リゾクトニア	発病初期: バリダシン液
もみ枯細菌病 苗立枯細菌病	発病を確認したら、感染防止のためハウス・トンネルから持ち出し処分する。
いもち病	発病後: カスミン粉剤・フジワン粒剤など

これらの薬剤は、**プレミアム・スタンダード米には使用できません**のでご注意ください。
 また、**薬剤使用前に、一度担当TACまたは営農指導員までお問い合わせ下さい。**

生産基準米(プレミアム米・スタンダード米)箱施用剤の注意点!

❖ 水稲育苗箱施用剤

【スタウトダントツ箱粒剤】

(ネオニコチノイド系)



成分名
クロチアニジン
イソチアニル

高密度播種苗対応

**1kg/10aまたは
1箱あたり50g~100g**

**プレミアム米・スタンダード米では使用
できません!(JA米では使用可能)**

【スタウトパディート箱粒剤】

(ジアミド系)



成分名
シアントラニリブロール
イソチアニル

高密度播種苗対応

**1kg/10aまたは
1箱あたり50g~100g**

こちらに変更!

水田管理情報

除草剤の上手な使い方

①代かき、あぜ塗りは丁寧に

- 田面の凹凸がなくなり均平になるよう耕起、代かきは丁寧にやらないようにしましょう。
- 漏水しやすい場合は、あぜ波板やシートなどで補強しましょう。

②水管理をしっかりと

- 水口、水尻をしっかりと止めて、**5cm程度**の水深を確保しましょう。
- 除草剤散布後の**7日間**は落水やかけ流しをせず、入水もできるだけ控えましょう。

③適期に散布

- 雑草葉齢に合わせて処理適期に散布しましょう。
- フロアブル剤、ジャンボ剤は表層はく離やアオミドロが大量発生する前に散布しましょう。

④雑草が多い圃場では体系処理で

- 毎年雑草が問題となる圃場や、代かきから田植えまでの期間が長くなる場合は、
初期剤 + 一発処理剤(中・後期剤) や 一発処理剤 + 後期剤の体系処理を行いましょう。

7日間の止水管理を行うための3つのポイント

- 浅めの水深で、継ぎ足しの入水を行いません。
- 土壌表面が現れたら、オーバーフローさせないように静かに入水します。その際に、しっかり水を入れます。
- 処理時の水深をやや深めにすると最初の入水までの期間を長くすることができます。

注意してください!

被覆肥料殻の流出防止

多くの被覆(緩効性)肥料はプラスチック殻で肥料成分を覆っています。水田では、肥料成分が溶出した後の被覆肥料殻が水面に浮いて、河川や琵琶湖に流れ出る可能性があります。

浅水代かきを行うほか、代かきや田植え前の**強制落水は絶対に行わず**、さらに風でほ場の端に浮いている殻を見つけたら網ですくうなど、被覆肥料殻がほ場から流れ出ないように注意しましょう。



農業用プラスチックの注意事項

肥料袋、あぜ波板・シートは、**風で飛ばないように**しましょう。

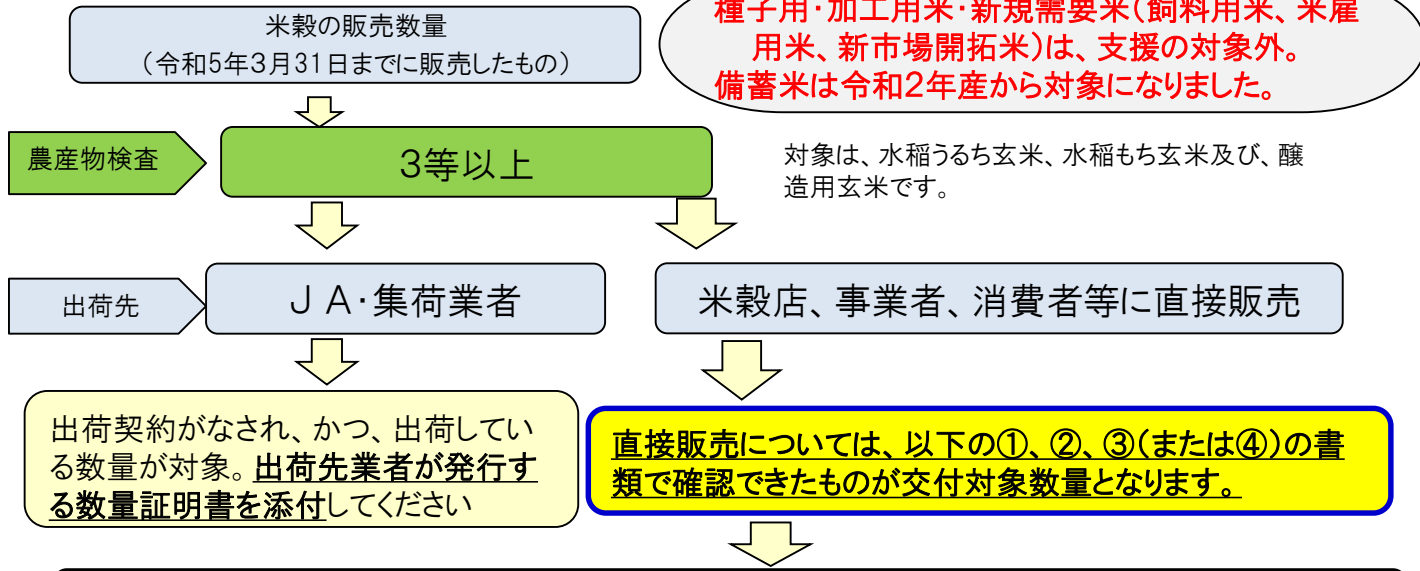
※農業から排出されるプラスチックは、産業廃棄物として『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』に基づき、適切に処分してください。不法投棄や野焼きは罰則の対象となります。地域の回収を確認しましょう。

令和4年産「収入減少影響緩和対策」交付申請

標記の交付申請書が近畿農政局から3月30日付に農家へ発送されていますので生産実績数量を記入し、JA北びわこ営農経済センター(湖北地域)または浅井支店(浅井・虎姫地域)・びわ支店・高月支店・木之本支店の営農経済係または長浜市産業観光部農業振興課、北部農林振興事務所へ提出をお願いします。また、直接販売分については下記の必要書類の添付が必要になります。

提出期限 令和5年4月14日(金曜日)までに各支店営農経済係またはTAC担当必着。

○交付対象数量の範囲(フロー図)



米穀店、事業者、消費者等に直接販売された場合の確認書類

- ① 直接販売した米穀の数量報告書(玄米用)または(精米用)
- ② 米穀検査結果通知書等の写し
検査米の場合は「検査結果通知書」の写し
未検査米の場合は、
・主食用 ・1.7mm以上の網目調製・水分16.0%以下
・産年・産地が明らかに確認できる販売伝票等の写し
- ③ 米穀の直接販売分の証明書類の添付省略に関する申出書
※③の申出により、以下の④のア、イ、ウの証明書類の提出が省略できますが、提出を求める場合がありますので、5年間は大切に保存してください。
- ④ 販売実績が確認できる書類
ア 3月31日までに、業者等への販売で相手先と文書等で販売契約を締結した場合は、次の①と②
 - ① 販売契約書の写し 契約日、販売の相手先、銘柄ごとの販売対象数量、販売価格、または販売価格の設定方法、引渡時期が記載されたもの
 - ② 販売伝票等の写し 納品書または販売伝票(領収書等)イ 3月31日までに、一般消費者等へ販売した場合は、次の③及び④
 - ③ 購入申込書の写し 販売日、販売の相手先、銘柄ごとの販売対象数量、販売価格が記載されたもの
 - ④ 販売伝票等の写し 納品書または販売伝票(領収書等)**※直売所等での販売について、販売の相手が不明な場合でも、直売所等の証明等で確認できれば生産実績数量に含めることができます。**
- ウ 3月31日までに、販売の相手先からの注文(ネット、FAX等)に応じて販売した場合は、次の⑤と⑥
 - ⑤ 購入申込書または発注フォームを印字したもの等
販売日、販売の相手先、銘柄ごとの販売対象数量、販売価格が記載されたもの
 - ⑥ 販売伝票等の写し 納品書または販売伝票(領収書、代金請求書+送り状など)

農業経営管理支援事業(記帳代行)について

農家組合員の皆様の悩みの一つになっている「会計記帳」の解消に向けた取組としまして「**記帳代行サービス**」を現在行っております。

記帳代行サービスとは？

農家組合員の皆様に代わって、農業にかかる日々の会計記帳をJAグループが代行することで、厄介な経理事務負担が大幅に軽減されるサービスです。

記帳代行サービスで出来ること

- ①煩わしい農業にかかる日々の会計記帳をJAグループが代行します！
- ②比較分析・期間分析で経営の見える化が可能！



経営分析・経営診断で現状を確認する事で、その人に合った取組・事業の提案を受けることができます！

利用者は四半期に一回面談するだけ！

日々の農業に関する取引について、JAと支援機関にて仕分けを行い、年に数回面談をしていただく事で青色申告決算書を作成できます。

ご利用者の皆さまからは、「申告時の手続きが楽になった」と好評です！

令和5年度利用者を募集しています！

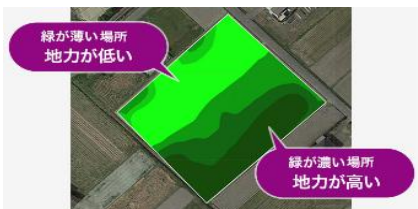
詳しくはTAC・営農指導員までお気軽にご連絡下さい。

生育診断システム「ザルビオ」について

衛星画像×AI分析のザルビオでは

今まではできなかった「圃場の状況を真上から見る」ことができます

活用法①地力マップを活用すれば、効果的な土作りができます！



圃場内の地力が高い場所、低い場所が一目瞭然！



地力が高い所は肥料の量を減らし、地力の低い所には肥料を多く散布



地力ムラの解消で品質向上・収量アップ！

活用法②生育マップを活用すれば、肥料コストを最適化しながら追肥が行えます！



圃場内の生育が悪い場所や生育が遅い圃場が分かる！



生育の悪い場所にだけピンポイントで追肥を実施



肥料代は抑えながら収量を安定化

詳しくはTAC・営農指導員までお気軽にご連絡下さい。

品質・収量向上に向けた管理

(1)赤かび病防除

大麦は赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行いましょう。1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後です。気温の経過により、出穂期～開花期の日数は変化しますが、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょう。


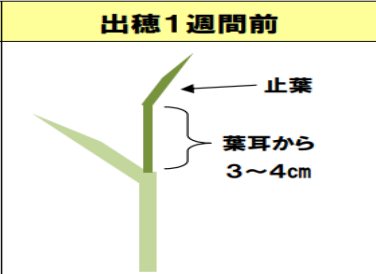
【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
10月中旬	4月5日～	4月8～15日	4月15～22日

※今後の気象状況によって、出穂時期は前後することがあります。

以下を参考にほ場ごとに防除適期を判断しましょう。

大麦の生育予測

出穂2週間前	出穂1週間前	出穂期
		40～50%の茎から穂先が出ている状態
		開花始め
		出穂3～10日後 (気温によって大きく変動)

(2)実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。特に、麦茶用は高タンパクの大麦が求められます。ただし、施用量や施用時期、生育状況によっては倒伏や遅れ穂の発生を助長しますので、ほ場ごとに判断して施用しましょう。

【施用量(窒素成分)および施用時期の目安】

施肥体系・生育状況	施用量	施用時期
分施肥体系	4kg/10a	出穂 10 日後
実肥成分を含まない一発肥料		
実肥成分を含む一発肥料 (大麦専用一発肥料 MFS 等)	1～2kg/10a	
特に、莖数が多く、葉色が淡い場合	2kg/10a	出穂1週間前～ 出穂 10 日後
特に、莖数が少なく、葉色が濃い場合 (播種時期が遅いほ場など)		施用しない

遭わない！起こさない！ 農作業事故

農作業事故は、1年中発生しています。
作業前のチェックと「声かけ」で事故防止！

【春の農作業安全月間】令和5年4月1日(土)～5月31日(水)

事故ゼロに向けて

- ◆トラクターや田植機でのほ場への進入・退出時は、転落・転倒に注意する。
- ◆機械作業中に詰まった物を取り除く場合など、機械の点検整備を行う時は、必ずエンジンを止めて作業する。
- ◆道路走行中に追突されないよう、自動車などから視認しやすい反射板や灯火器類を取り付ける。
- ◆刈払機を使用する際には、事前に農道や畦畔の点検を行い、石や空き缶などけがの原因になるものを取り除く。
- ◆こまめに休憩を取り、水分補給を行うなど、熱中症予防にも注意する。
- ◆万一の事故に備えて、労災保険に加入する。

機械別のチェック項目

トラクター

- 安全フレームを適切にセットする。
- シートベルト・ヘルメットを着用する。
- エンジン始動時は、周囲の人に注意する。
- 道路走行時は、左右のブレーキペダルを連結する。
- 路肩が柔らかく、道幅の狭い道では、低速で慎重に走行する。



刈払機

- 作業時には動きやすい服装で、適した防護具を装着する。
(滑りにくい靴、保護帽、保護メガネ、防振手袋、すね当て等)
- 法面など傾斜地ではバランスを崩しやすく、水分を含んだ草は滑りやすいため、足場の状況を十分に確認する。
- 刈刃に絡んだ草を取り除く時は、必ずエンジンを止める。
- 複数で作業する時は、半径15m以内に他の作業者が入らないようにする(5m以内は危険区域)。